

11/01/2020 Sat

01 メルボルンで乗り換え前



02 長旅の後ですが結構元気です



オーストラリアのメルボルンを経由して、出発から約15時間、全員無事にウェリントンに到着しました。入国審査も、私が通訳として立たされはしましたが、グループ扱いで特別レーンも用意してくれ、大きな問題もなく思ったよりずっと早く全員の入国が完了しました。入国カードの Food 欄に Yes のチェックが入っている生徒は、"What food do you have?"と質問され、英語で説明しなければならないのですが、「アイハブタマゴスープ」とか「ホージチャアンドマッチャ」なんていう説明でも、自信たっぷりに堂々と言ってしまうと、笑顔で"OK"と通してくれるんですね。寛大な空港の検疫官のみなさんにも感謝ですが、1年生の頃から English Camp などを重ねたおかげで、初対面の外国人にたじろがない本校生徒の強みを感じた瞬間でした。空港には OKC ウェリントンオフィスのスタッフが出迎えに来てくださっていましたが、予定より早く入国が完了したため、ずいぶんと驚いていましたね。

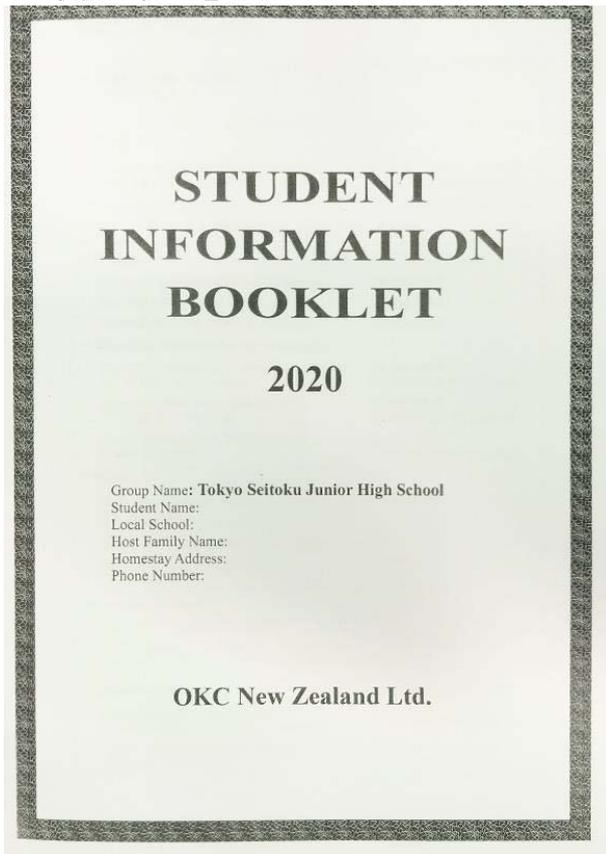
移動用のバスに乗り、オリエンテーションとホストファミリーピックアップの会場まで30分程度の移動です。ウェリントンは周囲を海に囲まれており、ほぼ海沿いの道を走りました。ここは、道路に面した高台に多くの家があり、家庭用のケーブルカーで道路沿いの駐車場と自宅を行き来する家も結構あり、実際にケーブルカーのレールがある家を見つけたり、ペンギンの飛び出し注意の道路標識を見つけて喜んだり、そこそこカーブの多い道を進んだ割には、車酔いもせずに到着しました。

### 03 Masae さんによるオリエンテーション



会場は公民館のような地域のホールで、バスケットボールのコートが3面取れるような大きなアリーナや図書館がある施設でした。NZ では日本でいう公民館にあたる施設がこの程度の規模であることはめずらしくありません。施設の1室がオリエンテーション会場として用意され、小一時間にわたり OKC ウェリントンオフィスのスタッフであり、語学学校に通う最初の2週間は生徒のアドバイザーの役割を果たしてくださる Masae さんが、留學生活の諸注意やウェリントンという町の特徴などについて説明してくれました。日本でも様々な研修用資料を用意しましたが、ここでも STUDENT INFORMATION BOOKLET が配布され、細かく説明してもらいました。

#### 04 最後の虎の巻です



ウェリントン組は携帯電話もここで配布され、使い方や Top Up(日本でいうチャージのことです)のことについてなど一通りの説明もありました。さらに、この2週間で必要な連絡先はあらかじめ全員分登録されていました。ありがとうございます。

#### 05 配布された携帯電話



## 06 ここが一番真剣な時間でしたね



さあみなさん、本当に事前研修はこれが最後ですよ、このあとまもなくやってくるホストファミリーと会ったその時からいよいよ本番です。うまくあいさつできないかもしれないけど、伝えたいことの半分も言えないかもしれないけど、まずは笑顔で "Hello!" ですよ。

夕方 5 時を過ぎたあたりから、ファミリーが次々と生徒たちを迎えに来ました。みんな緊張しながらも精一杯の笑顔で応えていましたね。まずは上々のスタートだとも思いますよ。今日は長旅の後で疲れてもいるでしょうから、ゆっくり休んで、来週からの語学学校のスタートに備えてください。

07 ホストファミリーと



08 ホストファミリーと



09 ホストファミリーと



10 ホストファミリーと



※全ホストファミリーの写真はあらためて掲載します

ウェリントンに到着してまず感じたのは、とても真夏とは思えないほど涼しい(寒い)ということでした。生徒も「先生、真夏なんですよええ？」と聞いてきますが、私も「そのはずだよ」と答えるしかありません。風が強くて有名な町ではあるのですが、夏の入り口は時々気温が低い日があるようです。そのうち暑くなってくるから、ビーチはもう少し先にとっておきましょう。